

神田支社	千代田区神田錦町2-11 TEL 03(3291)6411 〒101	多摩東支社	小金井市前原町5-6の9 TEL 0423(87)3211 〒184
大田支社	大田区南蒲田1-20の31 TEL 03(3734)0111 〒144	甲府支社	甲府市北口3-1の12 TEL 0552(53)1341 〒400
品川支社	品川区荏原4-2の4 TEL 03(3784)1111 〒142	豊島支社	豊島区東池袋1-46の5 TEL 03(3984)0111 〒170
港支社	港区南麻布2-5の19 TEL 03(3453)8011 〒106	北支社	北区豊島1-18の14 TEL 03(3912)2161 〒114
渋谷支社	渋谷区南平台16-28 TEL 03(3463)1121 〒150	練馬支社	練馬区錦2-18の15 TEL 03(3934)1181 〒179
目黒支社	目黒区目黒3-1の3 TEL 03(3792)3721 〒153	板橋支社	板橋区板橋1-33の8 TEL 03(3962)7985 〒173
新宿支社	新宿区西新宿3-7の30 山之内西新宿ビル TEL 03(3342)0111 〒160	石神井支社	練馬区石神井町6-16の8 TEL 03(3995)1711 〒177
中野支社	中野区新井2-47の6 TEL 03(3387)8161 〒165	浦和支社	浦和市別所7-1の1 TEL 048(862)0121 〒336
深川支社	江東区猿江2-4の1 TEL 03(3634)1111 〒135	大宮支社	大宮市宮原2-18の7 TEL 048(651)1131 〒330
台東支社	台東区松が谷1-3の3 TEL 03(3842)0111 〒111	群馬支社	高崎市東町134-6 TEL 0273(22)2523 〒370
文京支社	文京区向丘2-3の6 TEL 03(3815)1230 〒113	前橋営業所	前橋市南町3-2の10 TEL 0272(21)6655 〒371
荒川支社	荒川区荒川3-50の15 TEL 03(3803)2131 〒116	熊谷支社	熊谷市銀座3-71 TEL 0485(22)5171 〒360
葛飾支社	葛飾区青戸4-2の8 TEL 03(3603)0361 〒125	宇都宮支社	宇都宮市東宿郷4-2の16 TEL 0286(34)1911 〒321
足立支社	足立区竹の塚5-2の6 TEL 03(3884)2241 〒121	長野支社	長野市鶴賀1017 TEL 0262(26)8161 〒380
江戸川支社	江戸川区江戸川6-18の4 TEL 03(3689)5311 〒134	横浜支社	横浜市中区羽衣町1-2の1 TEL 045(251)2141 〒231
千葉支社	千葉市美浜区幸町1-6の8 TEL 043(242)6121 〒261	洋光台支社	横浜市磯子区洋光台4-2 TEL 045(833)1651 〒235
木更津支社	木更津市高柳2448 TEL 0438(23)1245 〒292	新横浜支社	横浜市港北区新横浜2-9の1 TEL 045(472)4911 〒222
常総支社	竜ヶ崎市新馬場山王台2517 TEL 02976(2)8111 〒301	旭支社	横浜市旭区二俣川2-39 TEL 045(362)6061 〒241
日立支社	日立市幸町1-22の2 TEL 0294(22)4131 〒317	鶴見支社	横浜市鶴見区鶴見中央4-33の5 TEL 045(501)2345 〒230
世田谷支社	世田谷区新町3-1の9 TEL 03(3426)1111 〒154	戸塚支社	横浜市戸塚区汲沢1210-1 TEL 045(864)3321 〒245
成城支社	世田谷区成城2-39の1 TEL 03(3417)4291 〒157	横須賀支社	横須賀市若松町1-20の1 TEL 0468(23)1570 〒238
調布支社	調布市調布ヶ丘2-4の5 TEL 0424(82)1191 〒182	川崎支社	川崎市川崎区小川町6-1 TEL 044(245)2211 〒210
杉並支社	杉並区清水1-26の8 TEL 03(3396)1111 〒167	中原支社	川崎市中原区小杉町2-215 TEL 044(722)1111 〒211
武蔵野支社	武蔵野市中町2-2の1 TEL 0422(54)0111 〒180	生田支社	川崎市多摩区三田4-2の1 TEL 044(932)4811 〒214
東久留米支社	東久留米市南沢5-1の1 TEL 0424(63)0111 〒203	湘南支社	藤沢市片瀬92 TEL 0466(26)0111 〒251
立川支社	立川市曙町3-6の13 TEL 0425(24)2111 〒190	相模支社	相模原市相模大野5-8の18 TEL 0427(42)6721 〒228
八王子支社	八王子市明神町3-3の9 TEL 0426(45)0511 〒192	湘南西支社	平塚市宮松町15-4 TEL 0463(22)2616 〒254
多摩ニュータウン支社	多摩市鶴牧1-26の2 TEL 0423(75)1151 〒206	本社	港区海岸1-5の20 TEL 03(3433)2111 〒105

※ご使用に際しての機器に関するお問合せは、ご使用地区の上記事業所または販売店にお願いします。

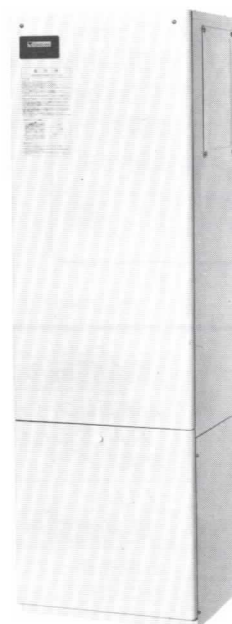
販売店名

製造者 松下電器産業株式会社
松下住設機器株式会社 ガスシステム事業部
奈良県大和郡山市筒井町800番地 電話 (07435) 6-1121 〒639-11

取扱説明書

型式名 AD-200FFA

ガス給湯暖房機



品名
AD-200FFA 屋内用

このたびはガス給湯暖房機をお求めいただきまして、まことにありがとうございます。

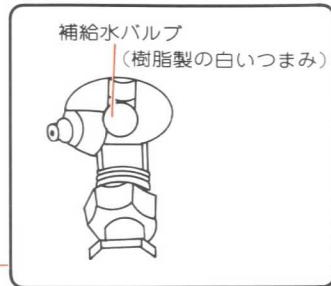
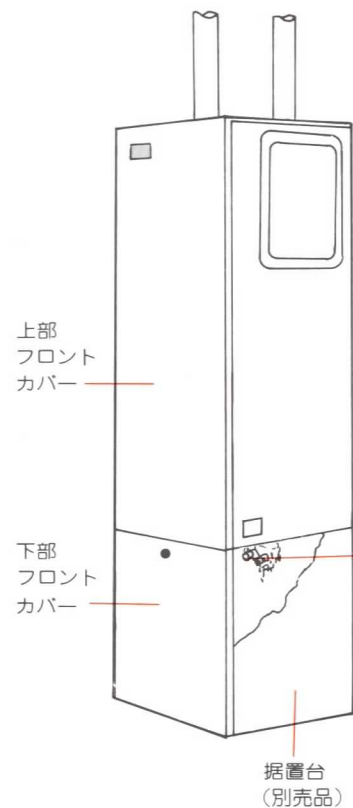
ご使用前に、この説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。なお、この説明書の裏面が保証書になっています。内容をよくご確認ください、後々のため大切に保管してください。

も く じ ページ

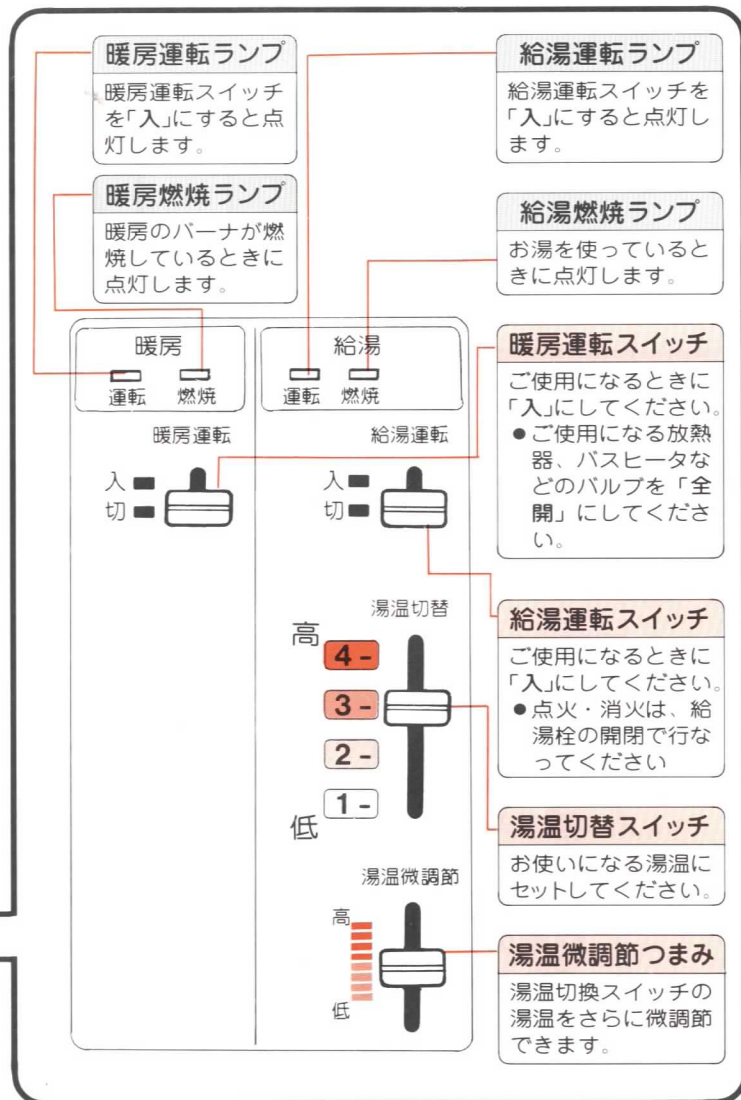
各部の名称	1
特に注意していただきたいこと	2
器具の設置及び付帯工事	4
器具の使用法	5
冬期の凍結による破損防止について	9
器具の上手な使い方	10
安全装置が作動したときの処置方法	11
日常の点検・手入れ	12
長期間使用しない場合	12
故障・異常の見分け方と処置方法	13
仕様	14
アフターサービス	16
保証書	18

各部の名称

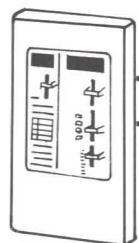
■外観



補給水バルブ



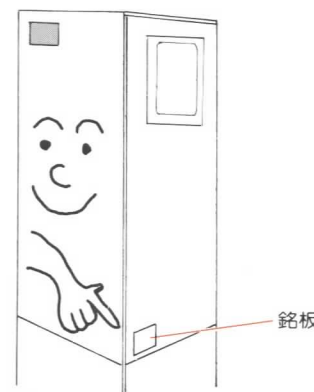
メインリモコン



特に注意していただきたいこと

■使用ガスについてのご注意

器具(銘板)に表示してあるガス(ガスグループ)以外のガスでは使用しないでください。表示のガス種類とお宅のガスが一致していることをお確かめください。



■使用電源についてのご注意

器具(銘板)に表示してある電源(電圧・周波数)以外の電源では使用しないでください。

例 AD-200FFA:12A・13Aの場合
[注]この部分をご確認ください。

ガス給湯暖房機	
型式	AD-200FFA
都市ガス用	ガス消費量 13A
最大給湯暖房電源	kcal/h kcal/h kcal/h AC100V 50Hz W

■用途についてのご注意

給湯(台所・シャワー・洗面など)および暖房(放熱器・床暖房など)・追だき(バスヒーターなど)の用途以外には使用しないでください。

■使用場所についてのご注意

壁、その他の可燃物から十分離れている場所で使用してください。
(詳しくは4ページをお読みください。)

■使用上のご注意

(1) ガス漏れ予防

- 使用後は、燃焼ランプ(赤色)が消えたことをお確かめください。
- お出かけのときや、おやすみの際には、必ず運転スイッチを切り、ガス元栓を閉めてください。

(2) 市販の補助用具使用についてのご注意

この器具用の付属品・補助用具以外は使用しないでください。
(不完全燃焼などの原因になります。)

(3) 火災予防

器具の上や周囲には燃えやすいものを置かないでください。
特に、給排気トップは洗たく物などでおおわないでください。



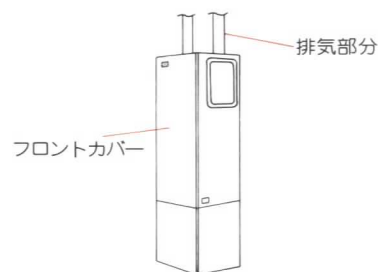
(4) 雷時の注意

激しい雷が接近したときは、使用を中止し電源プラグを抜くか器具用ブレーカを「切」にしてください。

特に注意していただきたいこと(つづき)

(5) 火傷にご注意

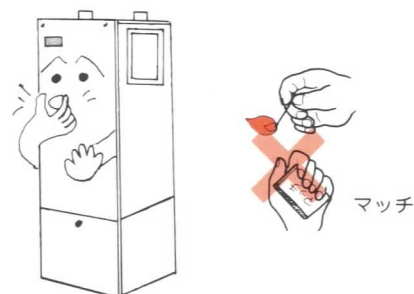
使用中および消火直後は、フロントカバーや、給排気部が高温になっていますので、絶対に手を触れないでください。



(6) ガス事故防止

ガス漏れに気づいたときは、すぐ使用をやめてガス元栓を閉め、お求めの販売店かガス会社に連絡してください。

[注] 万一ガスが漏れたときは、絶対に火をつけたり、近くの電気器具のスイッチの「入・切」をしないでください。

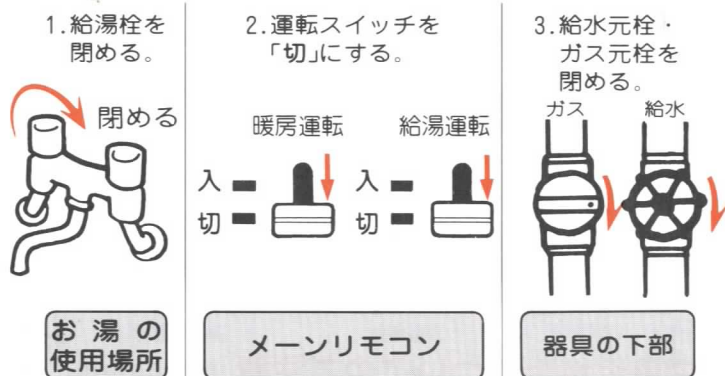


(7) 凍結についてのご注意

冬期は、寒冷地だけでなく、暖かい地方でも急な寒波のため器具内の水が凍って、器具を破損することがあります。詳しくは、9～10ページの「冬期の凍結による破損防止について」をお読みください。

(8) 異常時の処置

万一、異常燃焼(メインバーナ着火時や使用中に“ゴー”と音のするような燃焼)をおこしたときや、緊急の場合には、下図の処置をし、お求めの販売店か最寄りの東京ガスに連絡してください。



(9) 器内に長時間たまった水は、飲用または調理に用いしないでください。

(10) アース(接地)のご確認

ご使用前に、次のいずれかの方法で正しくアースされていることを必ずお確かめください。

- 分電盤内のアース端子へアース線が接続されているか。
- アース棒を使用しているか。
- コンセントのアース端子へアース線が接続されているか。

■ 日常の点検・手入れ

- 日常の点検・手入れは、必ず行ってください。(詳しくは12ページをお読みください。)
- 故障または破損したと思われる場合は、お求めの販売店かガス会社にご相談ください。不完全な修理は危険です。

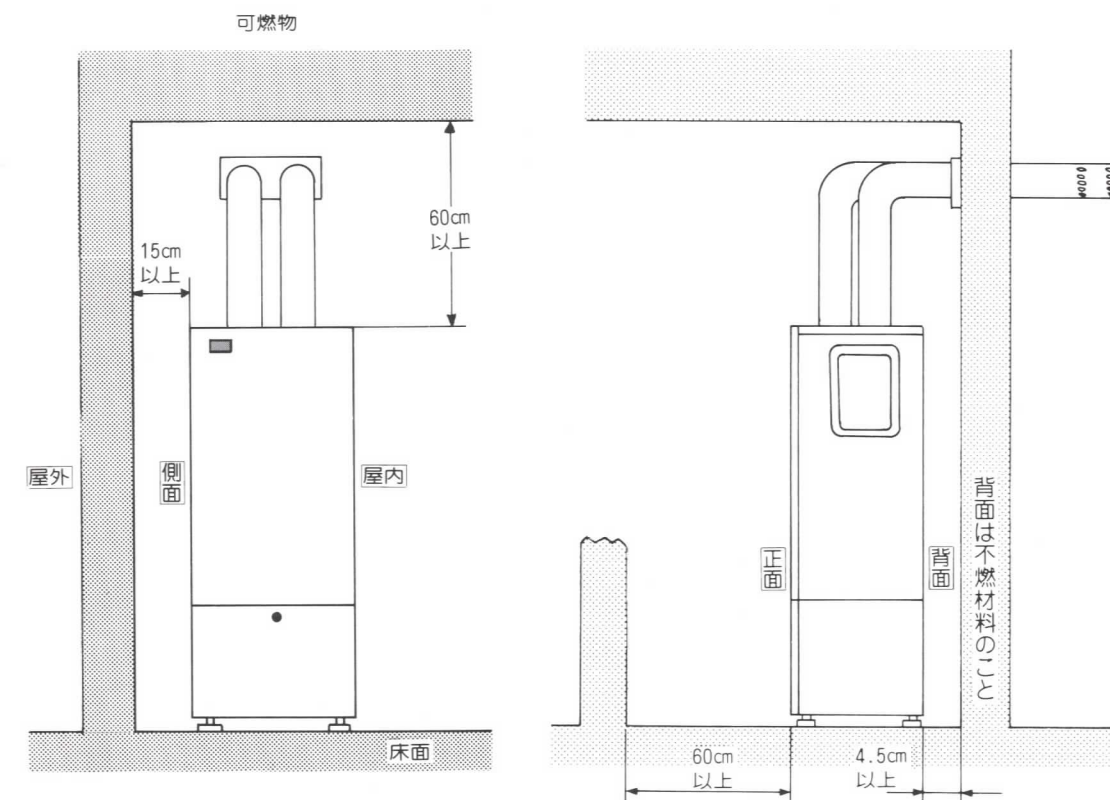
■ ポンプロック予防について

暖房シーズンオフ時に、給湯をお使いになると温水循環用ポンプが約30秒運転することがありますが、ポンプロック予防のためで異常ではありません。

器具の設置及び付帯工事

- 器具の設置は購入店に依頼し、安全な位置に正しく設置してください。
- 設置例のように正しく工事が行なわれているか確かめてください。

■ 器具の設置について



- 火災予防上、また保守・アフターサービス上、建築構造物から器具の両側面までは15cm以上の空間が、背面までは4.5cm以上の空間があるか確かめてください。
- 正面は、保守・アフターサービス上、60cm以上の空間があるか確かめてください。

器具の使用方法

■ 点火前の準備と確認

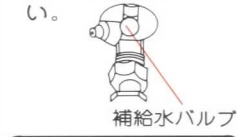
1. 給水元栓を全開にしてください。
2. 給湯栓を開け、水の出ることを確認してから閉めてください。
3. 器具底面の補給水バルブを開けて、補給水タンクに補給してください。補給が完了し、溢水口(オーバーフロー口)に水が流れたら、補給水バルブを閉めてください。
4. ガス元栓を全開にしてください。
5. 器具用のブレーカを「入」にしてください。



器具の下部



お湯の使用場所



器具の下部



器具の下部

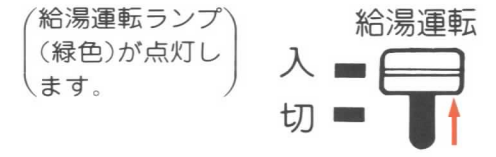


屋内の分電盤

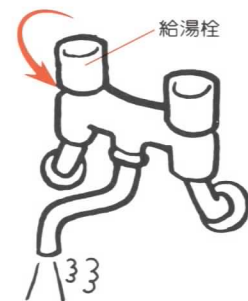
給湯の使い方

■ 点火

① 給湯運転スイッチを「入」にします



メインバーナに点火し、お湯が出ます。
(点火と同時に、給湯燃焼ランプ(赤色)が点灯します。)



[注] 給湯燃焼ランプ(赤色)が点滅しているときは、お湯になりません。このような場合は、いったん給湯栓を閉め、しばらく待ってから給湯栓を開けてください。

(給湯栓を開け、約7秒以内に点火しなかった場合は、自動的にガスをストップし、給湯燃焼ランプ(赤色)の点滅動作でお知らせします。)

■ 湯温調節

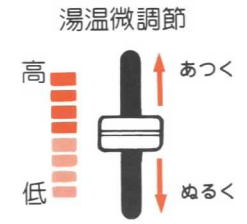
① 湯温切替

お使いになる湯温にセットしてください。(季節により多少変化することがあります。)
● 中間の位置にセットしても湯温は切り替わりません。



② 湯温微調節

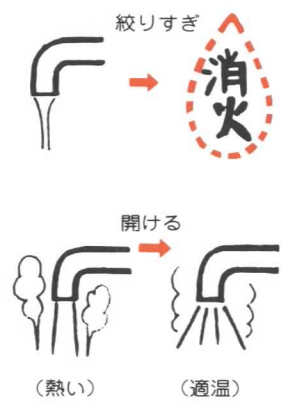
● 湯温をさらに微調節されるときに操作してください。
1目盛で約0.3~1°Cの温度差があります。



● 湯量を約3ℓ/分以下に絞りますと、メインバーナの火が消えるようになっています。

夏期には

● 水温が30°C近くになりますと、湯量が少ない場合には、湯温が熱くなります。このような場合には、湯量を多く出してお使いください。



[注]

- 給湯栓で湯量を調節しますと、水の中の空気が分離して、気ほうとなり、湯が白くなることがありますが、空気ですので何ら心配はありません。
- シャワーをご使用のときは、手で湯温を確認してからお使いください。
- 2カ所で同時使用されますと、ぬるくなったり、湯量が少なくなることがあります。特にシャワー使用中は同時使用はやめてください。



■ 消火

① 給湯栓を閉めます

- お湯が止まり、メインバーナが消火し、給湯燃焼ランプ(赤色)が消えます。
- 次にお使いになるときは、給湯栓を開けるだけでメインバーナに着火してお湯が出てきます。



お出かけや、おやすみの際など

② 長時間使用しない場合

給湯運転スイッチを「切」にし、ガス元栓を閉めてください。
給湯運転ランプ(緑色)が消えます。

1. 給湯運転スイッチを「切」にする。



メインリモコン

2. ガス元栓を閉める。



器具の下部

器具の使用法(つづき)

暖房の使い方

バルブを全開にします

暖房配管またはご使用になる放熱器、バスヒータなどのバルブを全開にしてください。放熱器に電動弁を使用している場合は、放熱器の切替スイッチを「ON」にすると自動的に「開」になります。

■点火

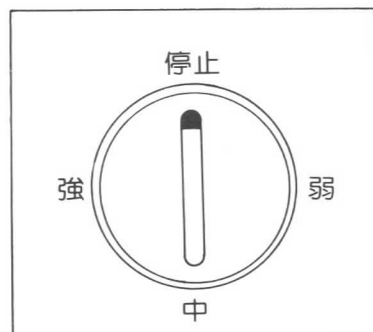
暖房運転スイッチを「入」にします

- 暖房運転スイッチを「入」にしてください。



- 暖房運転ランプ(緑色)が点灯し、自動的にメインバーナに着火し、暖房燃焼ランプ(赤色)が点灯します。
- 部屋の温度調節をされるときは、ルームサーモスタットまたは放熱器の切替つまみによって行ってください。

〔例〕放熱器の切替つまみ

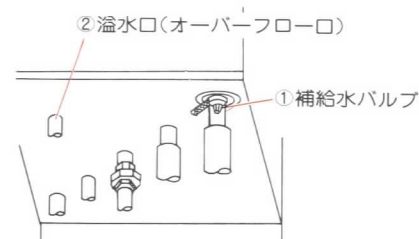


〔注〕

- 暖房運転ランプ(緑色)と暖房燃焼ランプ(赤色)が点滅しているときは、暖房運転スイッチを「切」にし、補給水タンクに補給してください。補給水タンクの水は蒸発しますので約1ヵ月に1度ぐらい水を補給してください。

(暖房使用時間により異なります。)

(器具底面の補給水バルブ①を開け溢水口②に水が流れたら補給水バルブを閉めてください。)



- 暖房燃焼ランプ(赤色)が点滅しているときは燃焼していません。このような場合は、いったん暖房運転スイッチを「切」にし、しばらく待ってから暖房運転スイッチを「入」にしてください。

(暖房運転スイッチを「入」にして、約10秒以内に点火しなかった場合は、自動的にガスをストップし、暖房燃焼ランプ(赤色)の点滅動作でお知らせします。)

- 室温が高い場合には、暖房運転スイッチを「入」にしても暖房燃焼ランプ(赤色)が点灯しない場合があります。

- 放熱器の空気抜き弁、水抜き栓は絶対に開けないでください。

(特に2階に放熱器を設置されている場合は、空気抜きを行ったり、加湿用の水を放熱器から取ると、暖房配管の水が抜けてしまい、運転できなくなりますから注意してください。この場合は暖房運転ランプ(緑色)と暖房燃焼ランプ(赤色)が点滅します。)

■消火

① 暖房運転スイッチを「切」にします

バーナが消火し、暖房燃焼ランプ(赤色)・暖房運転ランプ(緑色)が消えます。



お出かけや、おやすみの際など

② 長時間使用しない場合

暖房運転スイッチを「切」にし、ガス元栓を閉めてください。

暖房運転ランプ(緑色)が消えます。

1. 暖房運転スイッチを「切」にする。



メインリモコン

2. ガス元栓を閉める。



器具の下部

■停電後の使用方法

- 停電すると自動的にガスが止まり、給湯・暖房とも燃焼が停止します。
- 再通電したときは、給湯・暖房とも自動的に復帰し、再燃焼します。
- 長時間停電したときは、念のため給湯栓を閉めて、給湯運転スイッチ・暖房運転スイッチを「切」にしてください。
- 再通電したときは、5 および7 ページの「■点火」に従って操作してください。

■断水の場合

- 断水時は給湯栓を閉め、メインリモコンの運転スイッチを「切」にしておいてください。
- 再通水したときは、5 ページに従って操作してください。

冬期の凍結による破損防止について

(暖かい地域でご使用のお客様も必ずお読みください。)

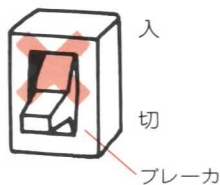


- 凍結すると器具や給湯配管が破損して、水漏れをおこしたり、器具が異常(空だきなど)をおこす危険性があります。
- 凍結による修理は有料です。

給湯

① 凍結予防ヒータによる方法

- この器具には、外気温が0℃近くになるとサーモスタットの働きで自動的に器具内を保温する凍結予防ヒータを組み込んでいます。
- 凍結予防ヒータは分電盤のブレーカが「切」になっていると作動しません。絶対にブレーカを「切」にしないでください。

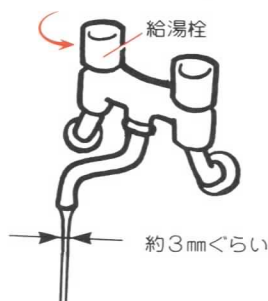


- 凍結予防ヒータは、運転スイッチの「入・切」に関係なく作動します。

[注] 外気温が極端に低く(無風時で-10℃以下)なりますと、この凍結予防ヒータだけでは効果ありません。このような場合は、次の②または③の方法を行なってください。

② 給湯栓から水を流す方法

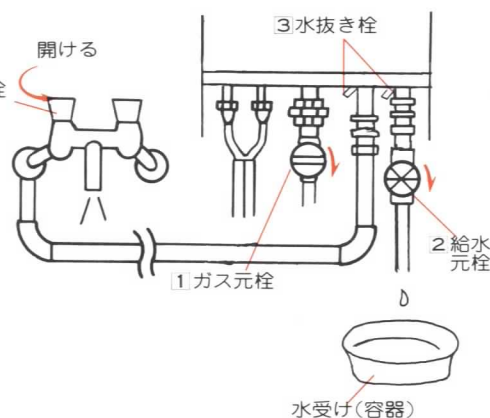
- ガス元栓を閉め、運転スイッチを「切」にして、お風呂場の給湯栓を開け、1分間に約200cc(牛乳びん1本ぐらい)の水を浴そうに流し込んでください。
- 流量が不安定なことがありますので、念のため約30分後にもう一度流量をお確かめください。



③ 水抜きによる方法

次の順序で行なってください。

- (1) 運転スイッチを「切」にし、ガス元栓①を閉める。
- (2) 給水元栓②をしっかりと閉める。
- (3) 水抜き栓③を開ける。(2本)
- (4) 給湯栓④を全部開ける。
 - 給湯栓④と、水抜き栓③から水が抜けるのを確かめください。
 - 次にお使いになるまで、このままにしておいてください。



<水抜き後の使用方法>

- (1) 水抜き栓③を元通り、しっかりと閉める。(2本)
- (2) ガス元栓①を閉めた状態、および給湯運転スイッチを「切」にした状態で給水元栓②を開け、給湯栓④から水が出るのを確かめ、給湯栓④を閉めてからお使いください。
- (3) 再使用するときは、5ページの「■点火」に従って操作してください。

■ご注意

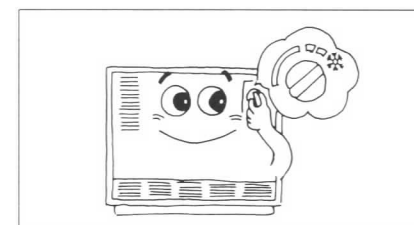
もし凍結して水が出ないときは、使用をひかえ(給湯運転スイッチを「切」にした状態で)、給湯栓④を開け、水が出るまで待ってからお使いください。

暖房

(1) 暖房運転スイッチを「切」にしてください。

(2) 各部屋のすべての放熱器の操作つまみを「※」にしてください。

(詳細については、放熱器の「取扱説明書」に従ってください。)



[注] 分電盤のブレーカは「切」にしないでください。気温が低いときは、自動的にポンプが回り凍結を防止します。

- 暖房シーズン前にお求めの販売店か最寄りの東京ガスに点検をお問い合わせください。

■凍結したとき

(1) 凍結した場合、ガス元栓・給水元栓を閉めてください。凍結したままお使いになりますと器具に異常が生じる場合があります。

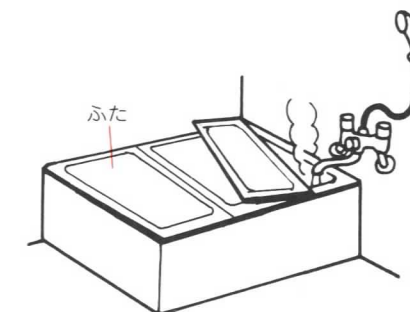
(2) 解凍したあと、水漏れがないのを確かめのうえご使用ください。

(3) 器具や配管が破損しますと、高額な修理費用がかかる場合があります。(有料)

器具の上手な使い方

■ふろへの給湯は……

- 入浴される湯温より、少し熱めで給湯し、浴そうにはふたをして、放熱ロスを防いでください。
- ご家族全員が続けて入浴される頃に浴そうに給湯すると経済的です。



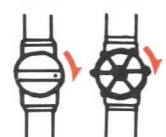



安全装置が作動したときの処置方法

■処置について

点火しなかったり、ご使用中にメインバーナが消火したときは、下記の方法および13ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」に従ってください。

また、次の安全装置が働いた場合には、給湯運転スイッチ・暖房運転スイッチを「切」にし、ガス元栓・給水元栓を閉めてからお求めの販売店か最寄りの東京ガスにご相談ください。

<p>1. 運転スイッチを「切」にする。</p>  <p>給湯運転</p>  <p>暖房運転</p> <p>入切</p> <p>メインリモコン</p>	<p>2. 給水元栓・ガス元栓を閉める。</p>  <p>給水</p> <p>ガス</p> <p>器具の下部</p>	<p>3. お求めの販売店か最寄りの東京ガスへ</p>  <p>連絡</p>
---	---	---

■給湯立消え安全装置

給湯のメインバーナの炎が消えたときは、安全装置が働いて自動的にガスが止まり、メインリモコンの給湯燃焼ランプ(赤色)の点滅でお知らせします。このような場合は、5ページの方法で再点火してください。

■暖房立消え安全装置

暖房のメインバーナの炎が消えたときは、安全装置が働いて自動的にガスが止まり、暖房燃焼ランプ(赤色)の点滅でお知らせします。このような場合は、7ページの方法で再点火してください。

■空だき防止装置(暖房)

暖房回路の水が減りますと水位スイッチが作動して自動的に運転が止まり、暖房運転ランプ(緑色)と暖房燃焼ランプ(赤色)の点滅でお知らせします。このような場合は、7ページの方法で補給水タンクに補給してください。

■空だき安全装置(給湯・暖房)

万一、メインバーナの火が消えずに、湯温が異常温度上昇したときは、ガスを自動的にストップします。

■過熱防止装置

万一、器具が異常温度上昇したときは、ガスを自動的にストップします。

■電流ヒューズ

過電流が流れますと、自動的に運転を停止します。

■過圧防止安全装置(給湯)

器具内の水圧が異常に上昇したときに作動し、器具内の圧力を下げて、器具の損傷を防止します。

■停電時安全装置

使用中に停電になると停電用安全回路が作動し、ガスを自動的にストップし、運転が止まります。停電後の使用方法については8ページをお読みください。

■ファン電流検知装置

ファンモーターに電流が供給されていない場合にはファン電流検知装置により、ガスを自動的に停止します。

■凍結予防ヒータ(給湯)

給湯回路の凍結を予防するために、低温になると働きます。詳しくは、9ページをお読みください。

■水流スイッチ

給湯量を約3ℓ/分に絞りますと、自動的にガスが止まります。

■漏電安全装置

器具内の電気回路に異常がおこり、漏電などの危険が生じると、電気を自動的に停止します。

■ファン回転検知装置

ファンモーターが所定の回転数に達しない場合にはファン回転検知装置により、ガスを自動的に停止します。

日常の点検・手入れ

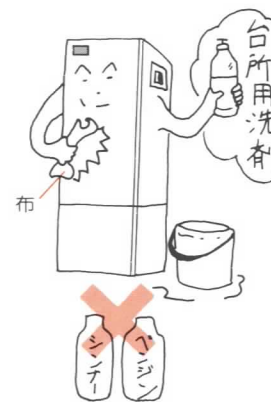
点検・手入れの前には、必ず給水元栓とガス元栓を閉め、メインリモコンの給湯運転スイッチ・暖房運転スイッチおよび分電盤のブレーカを「切」にして、器具が冷えてから行なってください。

■点検

- 器具および配管より水漏れ・ガス漏れはありませんか。
(ガス漏れは、配管接続部に石けん水など)をつけて調べてください。
- 運転中に、器具から異常音が聞こえませんか。
- 器具の外観に異常は見られませんか。
- 器具のまわりに燃えやすいものはありますか。

■お手入れ

器具の表面が汚れたときは、布またはスポンジに台所用洗剤(中性洗剤)をつけてふき取ってください。シンナー・ベンジンなどではふかないでください。



[注]メインリモコンの内部には電気部品が入っていますので、ぬらさないようにしてください。

■定期点検のおすすめ

ご使用上支障がない場合でも、不慮の事故を防ぎ、安心してより長くご使用いただくために、定期点検をお求めの販売店か最寄りの東京ガスにご相談ください。

長期間使用しない場合

必ずガス元栓・給水元栓を閉め、メインリモコンの給湯運転スイッチ・暖房運転スイッチおよび分電盤のブレーカを「切」にして、下記の処置を行なってください。

給湯側

9ページの③水抜きによる方法を参照のうえ、水抜きを行なってください。

暖房側

お求めの販売店か最寄りの東京ガスにご連絡ください。調査のうえ必要とあれば不凍液を入れさせていただきます。

故障・異常の見分け方と処置方法

ご使用中に、ふだんと違った状態になったときや不都合が生じたときは、そのままお使いにならず、ただちにご使用を中止され、十分な点検をしてください。

■故障・異常の見分け方と処置方法について(○=主原因、△=原因)		処置方法								お客さま	お求めの販売店かガス会社		
現象	原因	寒い日に給排気トップから湯気が出る	給湯栓を開けても湯が出ない	使用中に水になる	湯にならない	使用中に湯温が極端に変動する	お湯を止めても燃焼ランプが消えない	運転スイッチを入にしても	燃焼ランプが点滅するか点灯しない			暖房がきかない、またはききがおそい	
ブレーカが「入」になっていない		○						○		ブレーカを「入」にする	*		
ガス元栓の開き不十分		△	△	○	△				△	△	ガス元栓を全開にする	*	
配管内に空気が残っている		△	△						△		点火操作を繰り返す	*	
ガス圧が適切でない	低い	△	△	△	△				△	△	他の器具も同様の場合は点検を依頼する(他に原因がないとき)	*	
	高い		△									*	
給水元栓の開き不十分		○	△		△						給湯栓をいったん閉めてから給水元栓を全開にする	*	
水圧が適切でない	低い	○	△		△						点検を依頼する(他に原因がないとき)	*	
	高い				△							*	
水ストレーナの詰まり		△	△		△						詰まり除去または依頼する	*	
断水している		○									給湯使用をいったん中止する	*	
凍結している		○									解凍するまで使用を中止する	*	
バーナ炎口の詰まり 空気吸込口の詰まり		△	△	△					△	△	点検を依頼する	*	
熱交換器の目詰まり			△	△						△	点検を依頼する	*	
給湯栓の開き不足		△	△		△						給湯栓を全開にする	*	
ノズルの詰まり		△						△	△		点検を依頼する(他に原因がないとき)	*	
安全装置が作動した		○	○						○		点検を依頼する(度々作動する場合)	*	
水流スイッチの故障		△	△	△	○	○					点検・修理・部品交換を依頼する(他に原因がないとき)	*	
電気部品の故障		○	△	△		○	○	○	○		点検を依頼する	*	
ポンプが回転しない									○		点検を依頼する	*	
水ストレーナまたはポンプのごみ詰まり									○		点検を依頼する	*	
補給水タンクの水不足								○			補給水タンクへ水を補給する	*	
燃焼用ファンが回転しない		○							○		点検を依頼する	*	

仕様

機種名	ガス給湯暖房機	
型式名	AD-200FFA	
品名	AD-200FFA	
種類	給湯方式	先止め式
	暖房方式	温水循環方式
	給排気方式	強制給排気方式
設置方式	屋内用	
点火方式	電子イグナイタによる連続放電点火式	
着火方式	給湯	ダイレクト着火
	暖房	ダイレクト着火
外形寸法	本体	高さ941mm(据置台込みで1365mm)×幅420mm×奥行366mm
	メインリモコン	高さ255.5mm×幅156mm×奥行35mm
重量	本体	41.5kg(運転時45.5kg)
	メインリモコン	0.7kg
水圧	使用水圧	1kg/cm ² 以上
	作動水圧	0.2kg/cm ²
最低作動水量	給湯	3ℓ/分
	暖房	0ℓ/分以上(締切り使用可能)
ポンプ機外揚程	4.0mH ₂ O(5ℓ/分のとき)	
温度制御方式	給湯	電子式比例制御方式
	暖房	電子式Hi-Lo-OFF制御方式
温度調節	給湯	①約40℃ ②約45℃ ③約50℃ ④約60℃
	暖房	比例域：80℃ Lo～OFF域：68～88℃
給湯量制御方式	最大約8ℓ/分の定流量弁方式	
排気ファン制御方式	給湯	負荷によるHi-Lo制御
	暖房	負荷によるHi-Lo-OFF制御
	同時	Hi一定(強回転)
安全装置	給湯立消え安全装置・暖房立消え安全装置・空だき防止装置 空だき安全装置・過熱防止装置・電流ヒューズ・過圧防止安全装置 停電時安全装置・ファン電流検知装置・凍結予防ヒータ 水流スイッチ・誘導雷保護装置・漏電安全装置・ファン回転検知装置	
消費電力	最大195W	
	凍結予防装置作動時：175W	
接続	ガス	R ¹ / ₂ オネジ
	給水・給湯	R ¹ / ₂ オネジ
	暖房	G ³ / ₄ オネジ
	オーバーフロー	R ¹ / ₂ オネジ
電気	本体電源AC100V 3心(うち1心アース用)	
	メインリモコン～本体 DC24V 8心	
付属品	リモコン(一式)	
別売品	据置台	

仕様(つづき)

〈品名 AD-200FFA〉

使用ガス 使用ガス グループ	型 式 名	1時間当たりのガス消費量 (kcal/h)				出湯能力(ℓ/min) (水圧:1kgf/cm ² 時)		標準出力(kcal/h)	
		全ガス 消費量	給湯ガス消費量		暖 房 ガス消費量	能力最大時		能力最大時 暖 房	
			最 大	最 小		水温+25℃上昇	水温+40℃上昇		
都 市 ガ ス 用	4 B								
	4 C								
	5 C								
	6 A	31,000	24,500	7,600	8,500	(13)	8.1	7,000	
	6 B								
	6 C								
	7 C								
LPガス用	1 2 A	29,800	22,800	7,100	7,900	(12.1)	7.6	6,500	
	1 3 A	32,000	24,500	7,600	8,500	(13)	8.1	7,000	
LPガス用		2.71kg/h	2.04kg/h	0.63kg/h	0.71kg/h	(13)	8.1	7,000	

〔注〕 ●給湯能力の()内は、水温+25℃上昇に換算した号数です。
●使用ガスグループ中の空白部はお求めの販売店または東京ガスにお確かめください。

アフターサービス

(1)保証書

保証書は、必ず「販売店名・お買上げ日」等の記入をお確かめになり、保証書内容をよくお読みの後、大切に保存してください。

(2)保証期間 — 1年間

正常な使用状態で、この期間内に万一故障の生じた場合は、保証書の記載内容に基づき1年間無料修理致します。

(3)保証期間中に修理を依頼される時

13ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」に従って調べていただき、なお異常のあるときは、必ずガス元栓・給水元栓を閉めて、メインリモコンの給湯運転スイッチ・暖房運転スイッチおよび分電盤のブレーカを「切」にして、お求めの販売店かガス会社にご連絡ください。なお、寒冷時には水抜きをしてください。保証書の記載内容によりお求めの販売店かガス会社が修理致します。

〈連絡していただきたい内容〉

- 住所・氏名・電話番号
- 品名・お買上げ日
(保証書をご覧ください)
- 故障内容・異常の状態(できるだけ詳しく)
- 訪問ご希望日

(4)保証期間経過後、修理を依頼される時

お求めの販売店か最寄りの東京ガスにまずご相談ください。修理により製品の機能が維持できる場合には、ご要望により有料で修理致します。

(5)補修用性能部品の最低保有期間

ガス給湯暖房機の補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後7年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

(6)保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明な点は

お求めの販売店か最寄りの東京ガス(裏表紙一覧表ご参照)にお問い合わせください。

(7)ガスの種類の異なる地域へ転居される時

ガスには14の種類があります。ガスの種類が異なる地域へ転居される場合には、改造・調整が必要です。この改造・調整に伴う費用は保証期間内でありましても有料です。15ページの「仕様」において使用ガスグループ中の空白部は、お求めの販売店かガス会社にお確かめください。

(器具銘板に表示してある電源(電圧・周波数)以外の電源では使用できません。)

メモ欄

保証書

型式名	AD-200FFA
品名	AD-200FFA

上記機器をお買い上げいただきましてありがとうございます。この保証書は東京ガス供給区域内において都市ガス用としてご使用になる場合、本証書記載内容で無料修理をお約束するものです。

記

- (1) 保証期間は、お買い上げの日から1年間とし機器本体を対象とします。附属品は対象外です。
- (2) 万一故障の場合はお買い上げの店、もしくはもよりの東京ガスへお申し出ください。
- (3) サービス員が参上した時に本証書をお示しください。
- (4) 保証期間中でありましても次の場合には有料修理といたします。
 - (イ) 取扱説明書によらないでご使用になり故障した場合。
 - (ロ) お買い上げ後の取付場所の移動、落下等による故障および損傷。
 - (ハ) 火災、天災、地震等による故障、その他不可抗力による故障。
 - (ニ) お買い上げの店、あるいは東京ガスに、ご連絡なしに改造された場合。
 - (ホ) 機器に表示してある以外のガスでご使用のため改造された場合。ただし、当社都合の場合はのぞきます。
 - (ヘ) 本証書を紛失された場合。
- (5) 無料修理やアフターサービス等について、ご不明の場合はお買い上げの店または、もよりの東京ガス支社・営業所にお問い合わせください。

保証履行者 **東京ガス株式会社** 東京都港区海岸1丁目5番20号
電話03(3433)2111

保証責任者 **松下電器産業株式会社** 奈良県大和郡山市筒井町800
松下住設機器株式会社 電話07435(6)1121

	年 月 日	修 理 内 容	サービス員印
修 理 記 録			

お買い上げ日	年 月 日
販売店名	扱 者 印
住 所	
電話番号	

- お客様へ
1. この保証書をお受取りになる時に販売年月日、販売店名、扱者印が記入してあることを確認してください。
 2. 本保証書は再発行いたしませんので紛失されないよう大切に保存してください。
 3. 無料修理期間経過後の故障修理等につきましては取扱説明書をご覧ください。
 4. この保証書によって、お客さまの法律上の権利を制限するものではありません。